

(三)水泳部、プール竣工に意気あがる

図書館の建物が完成し、開館準備が着々と進められていた昭和二十九年の五月に、こんどは水泳プールの建設計画が発表されて、生徒たちの胸を浮き立たせた。図書館裏から河北小学校前にかけての敷地に、全長二十五メートル、幅十五メートルのプールを作るといふものであった。当時、市内の高校でプールを持っているのは盛岡一高だけであり、岩高水泳部は遠く城南小学校や志戸平温泉プールにまで出かけ、練習に励んでいたもので、このニュースを一番喜んだのは水泳部だった。

本校水泳部の歴史は古い。石桜会発足の当初から、柔道・剣道・競技・庭球・ラグビーなどの運動部と並んで、水泳部があった。例年、春まだ浅い四月から、赤ふんどし一本で高松の池に飛び込み



宿願のホームプール、日本水泳連盟からも甲種競泳池として公認

先輩の指導のもとに猛練習を重ねるのがならわしだった。このため、戦後もいちはやく部活動を再開し、昭和二十一年の市内中等学校大会や県下復活水泳競技会、県下中等学校水上競技大会などで他校を圧する好成績をあげている。

以下に、戦後十年間のおもな戦績を略記してみよう。

昭21 ● 県下復活水泳競技会総合一位、自由形二〇〇M二位(岩根)

● 県下中等学校水上競技大会総合二位、自由形八〇〇M一位(岩根)、背泳五〇M・一〇〇M一位(伊藤)

昭22 ● 県下中等学校水上競技大会総合三位、自由形四〇〇M・八〇〇M二位(大信田)、背泳五〇M・一〇〇M二位(吉田)

昭23 ● 県下高校水上競技大会総合二位

昭24 ● 県水泳選手権大会、メドレーリレー三〇〇M一位(村岡・柝沢・植村)

● 第二回中体連水泳総合一位

昭25 ● 第一回県水泳選手権大会優勝

● 県体水泳、背泳一〇〇M・二〇〇M一位(村井)、バタフライ一〇〇M一位(柝沢)

● 全国高校水泳大会四位

● 中体連水泳総合一位

昭26 ● 高校総体水泳、背泳五〇M・一〇〇M一位(村井)

● 中体連水泳総合一位

● 県体水泳高校男子の部総合一位、背泳五〇M・一〇〇M一位(村井)、水球二位

昭27 ● 高校総体水泳総合一位、背泳五〇M・一〇〇M一位

先生の横顔

昭和二十九年十月一日発行の「石桜新聞」第三十号に、「先生の横顔」と題するコラムが設けられた。生徒が諸先生をマナイタの上に乗せ、ユーモラスな筆をふるった好企画だったが、職員室は大恐慌(?)におちいったらしい。当時の教壇風景が生き生きと描写されていて、興味深いものがある。三回にわたって掲載された同記事を、以下に再録する。

〔戸嶋正夫先生〕学校一の紳士。怒るとこわいが、時々舌なめずりをしたり、皮肉をいったりして皆を笑わせる。授業中はものすごく静か。講堂で、き然と立っている姿はわれわれの憧れのまです。自分が出来ないことは他人にもいわないという信念、だそうだ……。

〔高橋精四郎先生〕これまた色白の学校一の美男子、鼻が高く、いつも澄まして……ああこんなハンサム見たことない!いつだか余り騒いだら「なんだ!てめえたち」と来たのでビックリ致しました。〔及川篤夫先生〕腰に手ぬぐい、手に風呂敷包「坊ちゃん」? 答えられないとウーンと首をひねって「よしつ、前へ来い」そしてゴツンと出席簿の音がする。教科書を忘れるとまたうるさい。柱に頭をぶつつける、なんていうから古くさくていかれてる。

〔山田雅男先生〕なかなか良い男ぶりだが一寸ずうずう弁が気にかかる。授業中に「いいが、そこで」と五、六回はいう。

○M一位(村井)、メドレーリレー一位

●県水球選手権大会優勝

●東北高校水泳大会、背泳一〇〇M一位(村井)

●中体連水泳総合一位

●県体水泳高校男子の部総合一位、背泳一〇〇M一位(村井)、自由形一〇〇M一位(吉田)、メドレーリレー三〇〇M一位

昭28 ●高校総体水泳総合一位、自由形一五〇〇M一位(小野寺)、メドレーリレー三〇〇M一位、リレー八〇〇M一位

●東北水泳大会総合三位、リレー二〇〇M・八〇〇M一位

●中体連水泳総合一位

●県体水泳総合一位、自由形二〇〇M一位(吉田)、同四〇〇M・八〇〇M一位(小野寺)、メドレーリレー三〇〇M一位、リレー八〇〇M一位

昭29 ●東北水泳大会県予選総合一位、自由形一〇〇M・二〇〇M一位(吉田)、同四〇〇M・一五〇〇M一位(小野寺)

●東北水泳大会総合二位、自由形四〇〇M・一五〇〇M一位(小野寺)

●高校総体水泳総合一位、自由形一〇〇M一位(金福)、同二〇〇M一位(吉田)、同四〇〇M一位(小野寺)、バタフライ二〇〇M一位(吉田)、リレー四〇〇M一位

●県体水泳総合一位、自由形一〇〇M一位(吉田)、同四〇〇M一位(小野寺)、バタフライ二〇〇M一位(吉田)、リレー八〇〇

M一位

昭30 ●高校総体水泳総合一位、自由形四〇〇M・一五〇〇M一位(小野寺)、バタフライ二〇〇M一位(後藤)、リレー二〇〇M・八〇〇M一位

●中体連水泳優勝

●県体水泳、自由形八〇〇M一位(小野寺)

実にみごとに成績であり、県内大会に関する限り、向かうところ敵なしの感がある。この輝かしい伝統を誇る岩手高校に、ホームプールができるというのであるから、まさに鬼に金棒といつてよかつた。

二十九年五月に着工以来、一年五カ月の工事期間と、四百万円の総工費をかけて、三十年九月三十日に水泳プールができあがった。「岩手高等学校プール」と命名されたこのプールは、七コース短水路のスマートな標準型だった。深さは、飛込み用の最深部が二メートル十、一番浅いところが一メートル三十である。付属施設として、ポンプ小屋と脱衣場がある。翌三十一年一月十九日に、日本水泳連盟から甲種競泳池として公認されているが、これは盛岡市内で二つ目にあたる。

昭和三十一年度の水泳シーズンから、緑の芝生に囲まれた岩手高等学校プールは、体育教科の授業や放課後の自由使用に役立てられた。そしてもちろん、水泳部の練習場所として、また各種水泳大会の会場として、その機能を最大限に發揮し出した。巻末の年表からも分かるように、昭和の三十年代から四十年代にかけて、わが校水泳部の黄金時代が展開されて行くのである。

となりの教室にいてもはっきりと聞えるという大声の持主。

「淵沢行雄先生」この頃は背広を着て、青い背広で心も軽くとばかりにさつそうと学校にくる。頭に手をあげて笑うが、質問をするとなぜか怒つたように答えるのがチャボさんの悪いくせさ。

「小笠原雅昭先生」自分より背の高い生徒がうんと居るのに、教壇から降りて授業をする。うるさい時は大きい声で「これっ!」というのがくせ。洋服代が安くつくなんてチャッカリデンスケさんだ。

「柴内興宗先生」入って来ると教卓の上にはバタンと大きな音をたてて置く。いうときは口にあわをためていうなかなかの雄弁家。本職?は和尚、目につくと誰にでも青い竹が打ちおろされるといふひどくぶつそうなナマグサ坊主。

「川股武雄先生」メガネを二重にかけているが、二つとも取つたら全然みえないのじゃないでしょうか。なにしろよく光る、授業もですよ。あの丸い頭から社会の先生らしからざる俳句も飛び出すんだから。

「津志田元先生」先生が初めて我々の教室に来た時『やあアンチャンのようだなあ』と誰しも思つたろう。先生の歩き方やかみをカッパのようにしている所などソックリだ。ある授業中ある生徒に『君はうるさくてだめだ、君達はバカだ、そういう人には教えることはない』とゆうぜんとした口調で外をみたりしている態度は、これこそアンチャン気どりである。「小山真一郎先生」非常に自慢する御老